

講演会

「デフレ経済下 における企業経営」

10月18日



鈴木敏文 イトーヨーカ堂社長

10月18日、本学の卒業生でもある、鈴木敏文氏による講演会が開催された。

テーマは「デフレ経済下における企業経営」―イトーヨーカ堂グループにおける経営戦略。

鈴木氏はバブル崩壊後、一貫して日本経済の先行きを厳しいものとして考えていたが、最近になって、日本経済は底を打ったと発言された。

今のデフレは、ものがない昔（昭和恐慌）のデフレ不況とは違って、ものがあふり余っている時代である。したがって単に物を安くすれば売れるというものではなく、高くても消費者のニーズに合っていれば売れるという。コンビニのおにぎりも、あえて素材のよくて高いおにぎりも、売ったり、洋服もよいものの方が売れ

る場合もある、とわかりやすい事例を挙げて説明された。

また、経済はドメスティックなものであるという。アメリカで成功を収めたからといって日本で成功するとは限らないし、その逆もいえる。日本においては飲料水（ジュースなど）の種類が年間約20000種類も毎年入れ替わっている。それに対してアメリカは数百種類にすぎない。だが、これらはそれぞれの国民性という質的な相違によるもので、単純な比較はできないという。

さらに、経営のありかたにも言及された。規模が大きいことはそれだけでうまくいっているという錯覚に陥りやすい。大切なのは無駄のない堅実な経営である。強い力士のように、組織も筋肉質な体格であることが必要だと説明された。また、経営というものは下から上ではなく、上から下、つまりトップダウンでなければならぬ。そして、すべての責任は経営者が負っているという。その一方で、組織内においては自分の利益だけに基づく行動や、派閥による争いを厳しく非難された。

確固とした経営理念をお持ちで、話

は力強く、つ、筋の通ったものだった。講演後の質疑応答において

は、マクドナルドの経営をどう考えるか、これからの展望、中国進出など、さまざまな意見が出された。

終わりに、経済学会OBによる鈴木氏の学生時代の思い出話もあり、興味深いものだった。

また、今回の講演会の準備、設営におきまして、大学関係者の方々にお世話になりましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

（記 学術連盟経済学会 佐藤有史）

